

令和6年度 地方創生交付金活用事業 担当課による一次事業評価シート

令和6年度 地方創生交付金活用事業一覧

事業NO.	事業名	
1	官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業	下諏訪町単独
	空き家物件の流通における様々な課題に対して、民間事業者や地域住民と連携しながら取り組み、移住希望者が「すぐに使える空き物件」の増加を図る。 ①地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築 ②空き家情報発信のプラットフォームの構築 ③移住相談窓口の体制強化	
2	下諏訪町健康ステーション整備計画	※令和2年度ハード整備実施
	旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。さらに当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は、多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。	
3	下諏訪町健康フィールド整備計画	※令和2年度ハード整備実施
	一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材にとっては、多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。	

事業名	官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業						
担当課	産業振興課 移住定住促進室		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的	空き家物件の流通における様々な課題に対して、民間事業者や地域住民と連携しながら取り組み、移住希望者が「すぐに使える空き物件」の増加を図る。 ①地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築 ②空き家情報発信のプラットフォームの構築 ③移住相談窓口の体制強化						
総事業費 ※交付金以外含	5,720,000円	交付金決定額	2,860,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	2,860,000円		
経費内容	移住定住促進支援業務委託料					4,796,000円	
	移住総合サイト(空き家情報バンク)保守・管理業務					924,000円	
	合計					5,720,000円	
総合戦略での位置付け	基本目標	【ひとの流れ】町の資源や価値などの魅力を想像し、多様な人材が交流しながら、下諏訪町への新たなひとの流れをつくる					
	施策	目的意識を持って訪れる人にとって魅力的な環境を創造					
	重要業績評価指標(KPI)	社会動態(転入及び転出)による異動人口					
	実績値	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
	R7年度目標値▲90人	▲101.2人	▲23人	▲2人	▲32人	▲83人	

事業詳細	
①	地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築
	目的・内容 まちづくりに意欲のある地域住民等と共に、町全体の空き家情報を包括的に収集する仕組みを構築する。また、収集した情報をもとに空き家を「すぐ使える空き家」とするため、専門性が高い不動産取引に向けて民間事業者と連携を進める。
	実施状況 前年度に構築した地域住民や不動産事業者とのネットワークを活用し、空き家啓発チラシの配布、補助制度の案内、空き家相談会を継続的に実施するとともに、宅建協会と連携し町内10地区で空き家啓発セミナー・相談会を実施するなど、地道かつ精力的に空き家所有者にアプローチを図り、空き家発掘及び流通促進に取り組んだ。
	効果・成果 令和6年度の空き家情報バンクの登録数は前年度比143%増の56件という過去最高の実績をあげた。本事業開始前の令和4年度の12件から、令和5年度は39件、令和6年度は56件と年々大きく実績を伸ばしており、町内の空き家の掘り起こし及び流通促進の取組の成果が着実に現れてきている。
②	空き家情報発信のプラットフォームの構築
	目的・内容 空き家情報バンクのホームページを、移住者視点でリニューアルし、民間事業者と連携しながら情報発信を行う。また、これまで下諏訪町で実績のあるリノベーション物件を情報としてまとめ、空き家情報バンクホームページを通して可視化して発信することで、移住希望者が空き家活用のイメージを持ちやすいようにする。
	実施状況 前年度にリニューアルした空き家情報バンクに町の企業情報や就労環境を掲載する「仕事を探す」コンテンツを新たに実装した他、民間事業者と連携しながら町の魅力発信や空き家物件の掲載など、移住定住に関する情報発信を積極的に行った。
	効果・成果 新たにリニューアルした空き家情報バンクにおいて、住まいの情報に加えて、町内企業の魅力や就労情報を発信することが可能となり、移住希望者にとって町の暮らし全体をより具体的にイメージできるようなサイトとなった。空き家情報バンクのリニューアル前後における1月当たりのサイトアクセス数の比較では170%増と大幅に増加している。
③	移住相談窓口の体制強化
	目的・内容 民間事業者と連携して相談窓口を運営することで、物件情報に限らず、移住者や民間の視点で様々な情報を発信し、物件と移住希望者とのマッチングをはじめ移住先として当町を選んでいただける環境を整える。
	実施状況 前年度に引き続き、民間事業者と密に連携を図りながら、町の魅力発信や都心でのイベントに積極的に参加するなど、外部への情報発信を強化するとともに、町に訪れた移住希望者に対しての、住まい・仕事探しの伴走支援にも注力し、当町に訪れるきっかけづくりと移住に向けたサポートに力を入れて取り組んだ。
	効果・成果 空き家の流通量が大幅に増えたことに伴い、移住希望者により多くの物件情報を提供することが可能となり、外部への情報発信や相談者の伴走支援の取組みが徐々にではあるがマッチングの成果として現れている。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R6目標値	R6実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
町が紹介した空き家に移住者が居住した件数(件)	23	21	未達成	空き家の流通量は大幅に増えているものの、すぐに居住できる物件がまだ少ないことも影響し目標にはわずかに届かなかった。
空き物件の掘り起こしを行い、下諏訪町空き家情報バンクに登録した物件数(件)	58	56	未達成	前年度実績を大きく上回る結果となったが、前年度実績に応じて上方修正された目標までには届かなかった。
町が紹介した空き物件を活用した開業件数(件)	6	6	達成	官民連携で空き店舗の発掘とマッチングに取り組んだ結果、順調な成果をあげることができている。

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R5	R6	R7	合計	達成状況
町が紹介した空き家に移住者が居住した件数(件)	目標値	16	23	前年度実績+13	39	
	実績値	14	21		35	
空き物件の掘り起こしを行い、下諏訪町空き家情報バンクに登録した物件数	目標値	27	58	前年度実績+21	85	
	実績値	39	56		95	
町が紹介した空き物件を活用した開業件数(件)	目標値	3	6	前年度実績+3	9	
	実績値	3	6		9	

事業効果	②地方創生に相当程度効果があった
理由	一年目に引き続き、空き家バンクの更なる拡充をはじめ、空き家説明会等の地道な啓発活動、空き家見学会や移住イベント実施による多角的な取組みにより、目標に達していない項目はあるものの、いずれのKPI数値も全体が右肩上がりであり、取組みの成果が着実に現れてきていることから②地方創生に相当程度効果があったとする。

<事業効果>

- | | |
|------------------|---|
| ①地方創生に非常に効果的であった | 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合 |
| ②地方創生に相当程度効果があった | 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合 |
| ③地方創生に効果があった | 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合 |
| ④地方創生に対して効果がなかった | 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合 |

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	本事業をより効果的にするためには、粘り強い継続的な施策展開が必要と考える。これまで一定の成果をあげていることから、二年目までに構築した土台(官民連携の連携体制や移住総合サイト)を基に、情報発信及び移住希望者の伴走支援体制を強化し、移住者の呼び込みをより一層強化してまいりたい。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に 有効であった 有効とはいえない
外部有識者からの意見	空き家バンク登録数、情報発信力の向上、移住相談窓口の充実など評価できる。 町が紹介した空き家に移住者が居住した空き家件数が用いられているが、移住者が居住した空き家率の方が適当ではないか。開業件数は継続・定着がゴールと考える。 デジタル人材やデジタル企業開業者の転入促進ができれば、より地方創生に効果があると考ええる。 増える空き家の現状を知ってもらう必要があるのでは。 引き続き、空き物件の有効活用、移住者の受け入れに注力し、町の活性化につなげてほしい。

事業No. 1 官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業



移住相談



移住ポータルサイト



空き家説明会



空き家見学会

事業名		下諏訪町健康ステーション整備計画						
担当課		教育こども課 健康スポーツ係		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的		旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。更に、施設利用者が行う個々のトレーニングを多様な指導者がパーソナルトレーナーとして指導できるよう、当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者のニーズに沿った指導ができる体制を構築することで、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方々や、働き方改革により「ダブルワーク」や「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	138,065,833円	交付金決定額	67,883,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	67,702,926円		
	経費内容	整備工事費	R2年度整備実施			109,635,044円		
		整備工事監理費				1,684,936円		
		効果促進事業費(トレーニング機器類の整備費)				26,745,853円		
		合計		138,065,833円				
運営費	総額	6,246,903円	施設運営費	6,246,903円	イベント等開催費			
	経費内容	健康運動施設(健康ステーション)管理費					6,246,903円	
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる					
		施策	健康長寿のまちづくり					
		重要業績評価指標(KPI)	健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数					
		実績値	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
		R7年度目標値 12回/160人	12回/145.2人	12回/92人	12回/89人	12回/100人	12回/91人	

事業詳細		
①	健康ステーション管理運営事業	
	目的・内容	健康ステーションを適正に管理し、町民の自発的な健康づくりに寄与する施設として運営する。
	実施状況	利用率を向上させるため利用者の要望を取り入れ、開館時間を1時間延長と、定期利用券(3ヶ月、6カ月)の導入から1年経過し、夜間営業時間の利便性と定期券の定着が図られている。
	効果・成果	令和3年度オープン以来、右肩上がりで推移し前年比134%増の過去最高の入館者数を更新した。定期券導入後の状況は、令和5年度定期券購入数274件に対し、令和6年度は定期券購入数336件。週3回以上利用する方も増えている。
②	健康ステーション利用促進事業	
	目的・内容	健康ステーション利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を実施する。
	実施状況	未利用者に施設に足を運んでもらい、新規登録の機会としていただくため、無料マシン体験会を毎月2回実施した。 また、施設利用者の定期的、継続的な利用を促すため、体組成測定会を隔月で開催した。
	効果・成果	令和6年度で392人が登録し、累計登録者数2,048人(町内1,632人・町外416人)となった。 習慣的に施設を利用する利用者が増えており、継続した運動習慣の定着が図られている。
③	健康サポーター活用事業	
	目的・内容	専門的な知識・経験を持った「健康サポーター」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革、活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況	引き続き健康サポーターの募集を行い、登録者数は24人となった。(健康ステーションを中心に活動しているのは5人) また、利用者へのマシンの使用方法の指導や新規オリエンテーションを健康サポーターに担当してもらうなど、施設の運営を補助してもらった。
	効果・成果	健康サポーターから利用者への声掛け、トレーニング方法のアドバイスなどを行ってもらった結果、親切で寄り添った指導が好評であった。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R6目標値	R6実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	13,747	18,017	達成	
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	8	1	未達成	マシントレーニングに関する知識・経験を有する方の登録が少なかったため。
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	109	74	未達成	未達成ではあるが、ステーションサポーターが「ゆたんぽ」のプール指導にも当たっている(実績値に含まれない22回)。よって概ね達成。

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	R6までの合計	R6までの達成状況
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	目標値	0	3,000	4,856	6,974	13,747	28,577	達成
	実績値	0	4,256	6,674	13,447	18,017	42,394	
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	目標値	0	5	5	6	8	24	未達成
	実績値	0	0	1	3	1	5	
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	57	109	266	未達成
	実績値	0	0	7	59	74	140	

事業効果	②地方創生に相当程度効果があつた
理由	施設の利用登録者も順調に増え、延べ利用者数も目標値を大幅に上回る結果となった。 健康サポーター(個人)の登録については、募集方法等について課題が残ったものの、施設利用者の健康増進に寄与するといった面では、概ね地方創生に効果があつたものとする。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があつた 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があつた 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	令和3年の供用開始以降、利用者数も順調に増加するなど施設も町内をはじめ近隣地域に定着しつつあり、一定の成果を得ることができた。利用者のニーズを把握して効果的な施設運営を心がけるなどし、計画期間終了後も事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に 有効であった 有効とはいえない
外部有識者からの意見	利用者が着実に増加してきており、健康づくりの拠点として定着し、町民の健康増進に寄与している。 健康サポーターは新たな働き方の場を創出しているが、登録者数が伸び悩んでいるので課題を改善して増加の取組みを期待する。 サポーターの育成支援や報酬の見直し、隣接自治体との相互利用によって、健康ステーションの利用者層を広げるなど利用促進策の強化、広域自治体連携型SIBなどの研究・検討を進められると良い。 健康スポーツゾーンを活用した講座への参加者数については、魅力的な講座と周知・情報発信の方法の検討が必要なのではないか。

事業No. 2 下諏訪町健康ステーション整備計画



健康ステーション利用状況



無料マシン体験会



健康サポーターの様子



パルクールエリア

事業名		下諏訪町健康フィールド整備計画						
担当課		教育こども課 健康スポーツ係		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的		一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。 更に、健康教室等を指導するための当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材は、将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方や働き方改革で「ダブルワーク」「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	26,113,400円	交付金決定額	13,238,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	13,056,700円		
	経費内容	整備工事費			20,414,709円			
		整備工事監理費			614,461円			
		効果促進事業費(駐車場整備費)			5,084,230円			
		合計			26,113,400円			
運営費	総額	1,894,487円	施設運営費	1,652,487円	イベント等開催費	242,000円		
	経費内容	健康運動施設(健康フィールド)管理費				1,652,487円		
		健康フィールド活用事業費				242,000円		
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる					
		施策	健康長寿のまちづくり					
		重要業績評価指標(KPI)	健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数					
		実績値	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
		R7年度目標値 12回/160人	12回/145.2人	12回/92人	12回/89人	12回/100人	12回/91人	

事業詳細

①	健康フィールド管理運営事業	
	目的・内容	健康フィールドを適正に管理し、個人や団体の自主的な健康づくりの場、運動講座の会場等としての活用を図る。
	実施状況	屋内外共に、町主催事業の会場としての稼働と、一般利用のスケジュールがバランス良く組まれている。その立地から、課を超えた連携の使用もあり、周辺の公園と組み合わせた事業も可能。
	効果・成果	屋内フィールドについては、日中と夜間の運動講座の会場を主としているが、夜間営業時間の延長により、平日夜のスポーツ団体の利用も始まり稼働時間が増加している。
②	健康フィールド利用促進事業	
	目的・内容	健康フィールド利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を周知、実施する。
	実施状況	5月、7月、9月、11月に無料開放日を設け、施設を無料で利用してもらうとともに、健康サポーターによるレッスンイベントを実施し、施設の周知と利用促進を図った。
	効果・成果	無料イベントの実施や、運動教室の開催により、施設を開放していくことで施設の知名度も上がり、利用者の増加につながっている。
③	健康サポーター活用事業	
	目的・内容	「健康サポーター制度」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革・活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況	随時健康サポーターの募集を行い、登録者数は24人となった。 また、健康サポーターが講師を務める運動講座を延べ83回開催した。
	効果・成果	健康サポータの協力により、多様な講座を開催することが可能となり、これまで講座に参加したことのない新たな受講者の獲得につながった。 また、個人事業の教室会場として、健康フィールドを利用するサポーターが出るなど、施設の利用促進にもつながった。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R6目標値	R6実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	7,279	7,274	未達成	概ね達成
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	7	3	未達成	該当すると思われる、地域のフリーランスインストラクター等が少ない可能性があるが、引き続き周知を行っていく。
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	117	83	未達成	健康サポーターによる講座、町健康運動指導士による講座の開催数のバランスが取れているため、未達成ではあるが運用のマッチングは適正を保つことができている。

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	R6までの合計	R6までの達成状況
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	目標値	0	3,000	3,273	6,701	7,279	20,253	達成
	実績値	0	2,673	6,401	6,979	7,274	23,327	
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	目標値	0	5	5	19	7	36	未達成
	実績値	0	0	14	2	3	19	
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	110	117	327	未達成
	実績値	0	0	60	67	83	210	

事業効果	②地方創生に相当程度効果があった
理由	施設利用については、今年度の目標値同等の利用者数に達した。 サポーターが講師を務める運動講座は定着しつつあり、毎回定員に達し好評である。 地域住民の健康増進に寄与するとともに、地域人材の活躍の場を創出するといった面では、概ね地方創生に効果があったものと考ええる。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	供用開始から4年経過し、施設の周知も進み、利用者数も増加している。 指導者の分野に若干の偏りがある課題も見えてきたが、各ジャンルの健康サポーターの募集にも引き続き力を入れ、一般利用の促進と運動講座等での利活用も進めるなどし、計画期間終了後も事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標 (KPI) 達成に 有効であった 有効とはいえない
外部有識者からの意見	利用者数が年々増加しており、町民の健康増進に向けて評価できる。 健康サポーターの登録者数とサポート件数が未達であり、制度の定着と運用強化が課題であると考ええる。 健康サポーターについて、健康ステーション・健康フィールド共通で、民間の事業者が運営しているフィットネスジム等でも、すきま時間活用の労働形態は当たり前になっているのではないかなと思うので、地方公共団体は違った形の提案を出来ると、尚良いのではないかな。 健康スポーツゾーンを活用した講座への参加者数を増やすために情報発信の方法・講座の企画等の変更など必要な改善を図っていく必要がある。

事業No. 3 下諏訪町健康フィールド整備計画



屋内フィールド



屋外フィールド



無料開放日



健康サポーターの様子